～ *Serving the Community and Supporting the YMCA since 1976* ～

埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

月間テーマ：*Kick Start Month*

2024 年
7月

2024-25 年度クラブテーマ「市民と繋がろう・市民に知らせよう」

埼玉クラブがジェンダー学習を始めて１年半経った。高齢男性世代としてこれからも日本各地の男性優位の文化や伝統を解剖し、学んだことを発信していきたい。同時に若者サポートを区全体の課題とする理事の方針とうまく繋げられないか考えたい。今号では会長方針・クラブ課題を掲載する。

（1）先月１・２泊で歌声集会の昔の仲間がコロナで活動中止後始めて草津温泉の旅で再会。大いに歌った。（記事参照）（2）「広島に届ける折り鶴を折ろう」と市民や知合いに呼びかけたところ、ひと月で 900 羽以上集まった。写真右上は昨年７月サポセンで糸通しする塀和メン。写真中央の米粒大の二羽は店に飾っておくことにした。（記事参照）

今月の聖句

「あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく朽ちない種からであり、生きた、いつまでも残る、神のことばによるのです。人はみな草のよう。その栄えはみな草の花のようだ。草はしおれ、花は散る。しかし、主の言葉は永遠に立つ」とあるからです。これが、あなたがたに福音として宣べ伝えられた言葉です。」

ペテロの手紙(1) 1:23～25

7 月「*Kick Off*」例会（終了）

日時：7 月 28 日（日）19:00 ～ 20:30 頃
会場：各家庭からオンラインで
プログラム：新年度の挑戦

8 月 夜談会

日時：**8 月 12** 日（月・祝）午後 6 時～8 時
会場：サイゼリア（浦和駅東口）か ZOOM か？
・気楽に知り合い、見識を深める拓けた大人の会

◆心のふるさと歌声集会・草津の旅

藤井 芙美氏

心配された雨も上がり 6 月 24 日総勢 13 名のメンバーが草津中沢ヴィレッジに集合しました。ロビーで旧交を温めその後は、9 階と 10 階に分かれ各部屋へ。

部屋からは元白根山、浅間山、草津の町がそれぞれ眺められる針葉樹に囲まれた静かなホテルでした。各部屋での休息や温泉入浴の後、早めの夕食を取り少し離れたカラマツの林の中のログハウスにホテルの送迎バスで向かいました。ハウスは直径 40 センチほどの杉材を組み合わせた本格的な丸太小屋です。リビングには先に到着した衣笠さんお手製のスクリーンが設置されおり、映し出された画面を懐かしみ、周りを気にすることなく「野に咲く花のように」「山小屋の灯」「芭蕉布」などを大きな声で歌い、そして雑談、素晴らしい仲間との本当に楽しいひと時を過ごすことが出来ました。翌日は 1 泊で帰る方たちをバスターミナルまで見送り、残留組の 7 名は夜の女子会に備えての自由行動でした。

歌声の草津合宿がコロナ禍のため延期されて、今回やっと実行されました。私達にとってのこの歳月はけっして穏やかではありませんでした。厳しく又ユーモアを交えてご指導くださった大室先生が亡くなられました。また会員にも亡くなった方、音信不通の方、体調不良で外出できない方が多々いらっしゃいます。ご回復を祈念すると共に、大切な 4 年間を取り戻すことは出来ませんが、これから始まる「心のふるさと歌声集会」の様々なイベントには、ぜひ参加したいものです。楽しい合宿でしたが皆様のお顔を思い出し懐かしくむ会でもありました。❖

＊「心のふるさと歌声集会」は浦和 YMCA を主たる会場に埼玉クラブが主催し、月 1 ペースで実に 114 回続きました。一緒に旅行し、クリスマスを祝いました。今回の温泉旅行を機にまた活動を企画していきます。

◆「広島に届ける折り鶴作り」を実践して

浅羽俊一郎 メン

6 月下旬から 7 月中旬までひと月実施した「折り鶴を広島へ」活動。埼玉 Y's メンズクラブの塀和（はが）メンが長年有志・知人から集めた折り鶴を自前で広島に届けていたことを知って、昨夏他のメンバーと折り鶴を数羽彼に託した。

今夏はもう少し手広く、とまず百円ショップで折り紙をまとめ買い。クラブアピールを兼ねて選んだ会場は市民ボランティアの多くが利用する浦和駅前の市民活動サポートセンター（「サポセン」パルコ 9 階）。そこのテーブルで上松、浅羽の二人が午後の 2 時間、周囲に呼びかけて黙々と折ること 4 回。その場で折ってくれる人、家で折ってくる人、郵送で届ける人。並行して浅羽メンは自身の地域活動の参加者にも呼びかけた。

一応目標は千羽としつつ、400 羽集まれば良しとしたが、結果はナンと 936 羽！気づかぬ間に多くの方が協力してくれていた。本当に嬉しかった。

「広島に」という呼びかけはボランティア実践者に共感してもらえたようだ。いろんな人と出会った。思い出話や家庭でのやり取りの様子を語る人、上手に折る人、折っては広げてを繰り返す人、折り鶴の意味を考える人、能登の被災者を思う人、実に様々だった。でも折っている間は皆真剣そのもの。十本の指が助けあって心の思いをうまく整理して、きれいな鶴に仕上げるのだろう。私は最後に折った一羽に平和への祈りを書き添えて、塀和氏に全部預けた。今彼は何千羽という鶴の糸通しにせっせと勤しんでいる。感謝し、応援したい。

ほんの短い活動だったが、それを通して多くの方と親しくなることが出来た。特に「サポセン」の職員はワイズを覚えてくれたと思う。（笑）

協力してくれた人たちは以下のとおり。

にほんごのへや（昼）有志と学習者 / 心のふるさと歌声集会の有志 / シニア大学受講生と職員 / 国際交流センター職員 / 百歳体操参加者 / 歌声てらす参加者 / 「サポセン」職員 / 新宿ゴールデン街の「十月」有志 / グーチョキパーティ有志 / 元気アップサロンとスマイルハウス / 埼玉 Ys と仲間たち（順不同・敬称略）❖

◆ 新年度 会長のことば

浅羽俊一郎

試行錯誤の３年を終え、会長４期目に入りました。皆さんの励ましのお陰で続けてこられました。そこで最近考えていることや夢をシェアしたいと思います。会長方針を肉付けしたようなものです。

１）チームとしてのクラブ

コロナ禍で活動が休止の中、クラブに入会したものですから、活動の進め方も交わりも味わえないまま会長に就任。そしてメンバーが二人退会。クラブは今「高齢化・少数・男性のみ」という困難に加えて、メンそれぞれが生活課題を抱えています。会長として３年間わがままを通し、チームワークを疎かにしていたと反省しています。これからの一年、メン一人ひとりの賜物にもっと引き出して、クラブのチーム化を図りたいと思います。

２）クラブ月例会

会場は浦和駅前パルコ９階の市民活動サポートセンター（以下「サポセン」）の空きテーブル。ZOOM参加も可能。地球儀とバナーで目立たせ、ジェンダー学習などで人を引きつけて活動にしたいです。クラブ専用に小型保管庫を借りました。開会時の区の信条唱和は省きませんか。なお例会の日時についてはこれからも必要に応じて変更しましょう。（今年度は部の会合がクラブの例会日時と重なります。）

３）ブリテン戦略

行動半径の小さいクラブにとってブリテンの発信力は大きいです。広く読まれることを意識して、通常１ページ冒頭に掲げる国際会長からクラブ会長に至る一連の「年間テーマ」を廃し、会長がクラブと共有したい思いを「クラブテーマ」として掲載しました。クリスチャンメンバーしか書かない「聖句と証し」のコラムに代えて「今月の聖句」にしました。日頃の言動こそ証しだと思っています。

中身についてはエッセーは投稿者の人柄が伝わり、読みやすいものが良いです。会議録は「メモ」ということで要点・印象・写真だけにしました。浦和 YMCA の「小窓から」で Ys の知りえない活動現場の参加者や職員の様子が伝わりました。「小窓」に代わるものを探しましょう。塀和メンの俳句にはほっとさせられます。引き続きよろしく。「お便り」はメンバーと、その生活の一部を外部の人に知ってもらう気楽な名刺です。メンバー間の思いやりと広報の意味でこれからも活用したいです。

なお、この４月から「サポセン」の機関紙閲覧ラックにブリテンを置いています。広報のための工夫を凝らし続けていきます。

４）夜談会

月例会がプログラムに沿って進められるのに対して夜談会は制約のない集いです。気楽な交わりの場がほしいとの声で始まりました。じきに３年になります。ワイズ以外の参加者も多くは市民活動をしている人がほとんどで、楽しみたいだの人はいないことに最近気づきました。ならば「夜談会」を市民ボランティアの意見交換の場としてアピール出来ないだろうか、と考えています。勿論和やかな雰囲気はそのままにして。広く明るい「サイゼリア」は打ってつけの会場かもしれません。

５）特別イベント

チームによる取り組みとして年度内にオンラインのジェンダー・ワークショップを考えています。「心のふるさと歌声集会」メンバー有志と衣笠メンによる活動が始まりそうです。「誰でもウォーキング」を涼しくなったらやりたいです。

６）市民とつながる

メンバーそれそれが日常生活の中で様々な人と繋がっています。中には市民運動や地域活動に関わっている人もいるでしょう。そういう人にワイズを理解してもらうにはどうしたらいいのでしょうか。メンバー個々人が彼らの活動を応援することだと思います。自分の活動が評価されるのは嬉しいものです。「き咲きてらす」を始めた時幹事を引き受けてくれた塀和メンや地元の方々の後押しがあったことが思いだされます。

ワイズは一般的にイベント招待には積極的ですが、閉会後のアフターケアという発想がない。仲間内で二次会へ、というのがお決まりのパターンです。形だけの歓迎よりも、閉会後の素直な惜別の気持ちと再会の願いのほうが相手の心に残ると思います。

今後は市民（女性・若者・有志翁）とつながり、彼らの活動を側で支えるワイズとして知ってもらいたいと考えています。その中から YMCA 再建への祈りも広がるかもしれません。

是非これからの一年皆さんと活動と活発な話し合いを続けましょう。完読感謝！❖

活動・会議メモ

◆ 7月「よる談会」

8日午後6時から浦和サイゼリアで会食しました。初参加の高岡さんは「水のフォルム」の市民田んぼで活躍中。この日はもう一人市民田んぼの仲間で夜段階回目の工藤さんが疾風（はやて）のように現れ、この写真を撮って疾風のように去りました。あとは顔見知りの皆さん。一人ひとり市民活動に主体的に関わっている者同士の話し合いは和やかで楽しいだけでなく、学ぶことが多いです。**（出席者：塀和・麻生・大輪・上松・高岡・浅香・工藤・浅羽）**

◆ 関東東部 第1回 部評議会

20日午後、川越「ウェスタ」の大会議室で部の評議会が開催されました。衣笠メン（今期部書記）の司会で開会。山本剛史郎部長（川越クラブ）は挨拶でワークキャンプ構想を披露。いつもの単調な口頭での諸報告は割愛。重要な議決事項は部長職をクラブのチャーター順の輪番制に戻したこと。また協議の部では「東日本区信条の唱和を見直したい」という議案（浅羽提出）についていろんな意見が会場から本音が聞かれて新鮮だった。二次会はいつもの焼き鳥屋。

（出席：衣笠・上松・浅羽）

◆ 7月「キックオフ」例会

28日（日）午後7時から8時半までオンラインで開催。自宅から水無瀬、上松、浅羽の3ワイズが参加。上松メンが四谷のY同盟訪問を語れば、水無瀬メンは浦和YMCAへの熱い思いで返す。また皆で今後の活動はワイズらしい方法で高齢者活動を考えよう、ということなった。久しぶりに皆言いたい放題。無駄話ゼロの90分は実に面白かった。尽きぬ元気なおしゃべりで今期の活動が始まった。これからの一年が大いに楽しみだ。

仲間からのお便り

◆ 今月の俳句　　塀和光二郎メン（俳号 愚道）

「腹掛けのタオルの柔さ昼寝かな」
夏の午後、疲れた体を休めるには昼寝が最高ですね。タオルの柔らかさがありがたいですね。

「冷まさずに麦茶の香りすすり味」
最近は水出しの麦茶もありますが、やはりヤカンで煮だす麦茶の香りが夏の象徴。熱いのをふうふう冷ましながらすすり飲むのが私は好きです。

「かき氷最後の甘さ飲み干して」
冷たく甘いかき氷も夏には欠かせません。最後の甘い汁を氷と一緒に飲み干すのがいいですね。

◆ 浅羽メン

8月チェンマイでの国際大会には上松メンと一緒。その後はこの夏もジュネーブと隣接するフランスのフェルネ・ボルテール町で過ごします。皆さんとオンラインで繋がれるといいです。

統計	出席	会員	ゲスト/ビジター
夜談会（7 / 8）	8	3	5
月例会（7 / 28）	3	3（ズーム）	

ワイズメンズクラブ 紹介

ワイズメンズクラブ国際協会（Y's Men International）は国際的青少年教育団体 YMCA を支える社会人のクラブの集まりであり、若者と地域への奉仕を目的とする団体です。政治信条・性別・肩書きや年齢差に関係なく国内外の交流を進めています。

埼玉クラブは浦和区を拠点に活動しています。ボランティア活動、国際協力、青少年育成に関心があり、責任感のある方は年齢・性別に関係なく募集しています。宗教団体・利益団体ではありません。

詳細は埼玉クラブ会長 浅羽まで。(090-7426-5553) または Y's Men International 東日本区の下記 URL をご参照ください。　https://ys-east.or.jp/#gsc.tab=0